

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 7 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 26 年 7 月 3 日 (2014.7.3)

【公開番号】特開 2013-38240 (P2013-38240A)  
 【公開日】平成 25 年 2 月 21 日 (2013.2.21)  
 【年通号数】公開・登録公報 2013-009  
 【出願番号】特願 2011-173519 (P2011-173519)  
 【国際特許分類】

H 0 1 F 27/12 (2006.01)

H 0 1 F 30/00 (2006.01)

【F I】

H 0 1 F 27/12 Z

H 0 1 F 31/00 S

H 0 1 F 31/00 H

【手続補正書】  
 【提出日】平成 26 年 5 月 16 日 (2014.5.16)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】全文  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】  
 【請求項 1】

トランスケースと、蓋とを備え、前記蓋には高圧ユニットを吊り下げ固定する複数の支柱を設け、前記トランスケースと前記蓋との内部には冷却油を封入した、直流放電で励起を行うガスレーザ発振器に用いる高電圧を発生する高圧トランスであって、

更に複数の穴を形成した絶縁物から成る内蓋を、トランスの冷却油の液面より下面側で前記支柱に固定したレーザ発振器用高圧トランス。

【請求項 2】

前記内蓋が前記支柱に O リングを介して固定されている請求項 1 に記載のレーザ発振器用高圧トランス。

【請求項 3】

環境温度 0 のときに前記内蓋を、液面下 6 ミリメートル以上となるように配置した請求項 1 または 2 に記載のレーザ発振器用高圧トランス。

【請求項 4】

前記蓋を、前記冷却油が 100 に上昇したときに前記冷却油面に対して空間を維持できる高さに配置した請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載のレーザ発振器用高圧トランス。

【請求項 5】

前記内蓋が凹面状に反るように前記内蓋の取り付けに対して前記内蓋を押すように押し棒部を前記蓋に設けた請求項 1 乃至 4 に記載のレーザ発振器用高圧トランス。

【請求項 6】

前記内蓋の凹面状の反り量を 1 mm 以上に設定した請求項 5 に記載のレーザ発振器用高圧トランス。